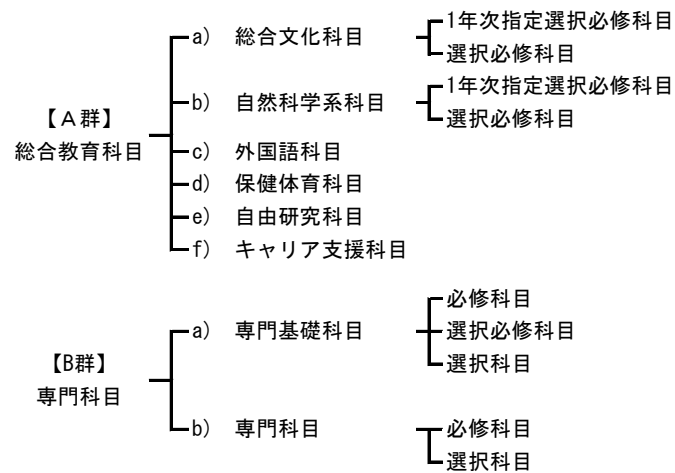


◀2017年度(平成29年度)入学生用▶

## 建築学部

### 授業科目履修課程表

#### ◆教育課程◆



## 建築学部で何を学ぶか

建築学部は、工学をはじめとする人文科学、社会科学や芸術などの幅広い学問分野の基礎教育と充実した教養教育を実施している。学生諸君が人間と社会、科学技術を多様な視点から捉える目を養うためである。そして、建築学部は、学生それぞれの個性を重視して専門的な能力を引き出し、実践的かつ総合的な教育により伸ばすことで、建築と都市環境の創造・再生、および、持続型社会を支える科学技術の発展を中核的に担う専門家を養成する。そのための素養を十分に身につける教育プログラムも準備している。

また、新たに形成されつつある建築関連の諸分野に対し、学生が今後求められる専門家となるためには、現実の建築に関係する現象を正しく認識する観察力や分析力が必要不可欠となる。そのため、建築学部は、学生が実験・実習・演習などによる課題解決の経験を通じ、これらの素養を十分に養えるよう図っていく。さらに、実社会における建築の設計者や技術者としての役割を体感させることも重視し、学生にインターンシップによるものづくりの現場への参加機会や、実社会で活躍している講師による特別講義の受講機会などを設けている。学生は、それにより、広範な知識を身につけ、社会において果たすべき建築の専門家としての役割を理解することができるようになるだろう。

建築学部は、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科による3学科体制により運営されている。

まちづくり学科では、地球規模の大きな社会状況の変化のもとで、これから我々がもっと快適に住み続けられるための「まち」の新しい姿について学生自身が考え、身近な「まち」に関わる様々な視点（つくり手・住まい手の両方からの視点）を獲得する。多角的な「まち」の将来像を構想し、実現していく素養を身につけて、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

建築学科では、安全で快適な生活の場の構築を目的として、大量生産・大量消費時代の新規供給中心の建築ではなく、安全で環境負荷の少ない生活環境を実現する建築の考え方を教育の中心に据えている。学生は、これからの新しい建築のあり方を規定するための高度な要素技術（計画、構造、設備、生産）を身につけ、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

建築デザイン学科では、単に美しいだけではなく、機能的にも優れ、快適で使いやすい、人間のための建築デザインとは何かを学生自身が考えて、新しいデザインのあり方を創造・発信することを目指す。さらに、環境への配慮や人間の生活の質（Quality of Life）の向上も考慮した建築の設計・提案を行う能力を身につけて、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

このように、学生が、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科のいずれかの就学経験を通じて、卒業後に、新時代の課題を適切に判断し、身につけた専門知識・技術を生かす指導的な役割（コーディネーターやマネジメントなどの役割）を果たせるような仕事に就くことを、建築学部としては目指している。活躍する分野としては、建築の基本分野となる建築設計、建築施工全般などに加えて、資源や環境の保全、持続可能なまちづくりや都市再生、防災、高齢社会に対応した生活環境づくりなど、いわゆる工学分野の建築学には含まれてこなかった幅広い専門分野を想定している。

さらに、本学大学院進学により、多様な研究分野が同じ学部の中に共存しているメリットを最大限に活かしながら、学生自身が複合的な新しい発想に基づく研究領域の創造を積極的に進めることを期待している。こうして、学生は新しい得意分野の位置づけを確立しながら、専門性を高めることを目指せるだろう。

《2017年度(平成29年度)入学生用》

## 建築学部

# 各 学 科 共 通

- 【A群】  
総合教育科目
- a) 総合文化科目
  - b) 自然科学系科目
  - c) 外国語科目
  - d) 保健体育科目
  - e) 自由研究科目
  - f) キャリア支援科目

### 【A群】総合教育科目

#### a) 総合文化科目

本学は工系大学であるが、すべての学問と同じく、工学もそれだけで独立したものではなく、他のさまざまな学問や、歴史や社会との複雑な関連の中ではじめて成り立つ。とりわけ今日では、科学技術や産業のあり方について、さまざまな角度からの再検討、再評価がおこなわれ、全人類的な視野に立った新しい展望の開拓が期待されている。したがって大学に学ぶ者は、狭い意味での専門分野だけではなく、できるだけ多くの学問分野に触れることが望まれる。広い知識、多様な関心、柔軟な感性こそが、専門領域での真に創造的な仕事や、現実社会での的確な判断力、責任ある態度を生み出すのである。

総合文化科目は、このような意味で専門教育を外側から支え、研究者として、技術者として、社会人として、できるだけゆたかな可能性と創造性をもった人間の形成に役立つことをめざして開設される。まず1年次の「建築ロジカルライティングⅠ」「建築ロジカルライティングⅡ」「総合文化アカデミックスキル」では、大学生としての主体的な学びを実践してゆくために必要不可欠な力を身につけ、将来を見据えつつ自らのアイデンティティの確立をはかってゆく。また、「美術A」「美術B」では建築を学ぶために必要なデッサン力、イメージ表現力を理論と実技の両面から身につけてゆく。さらに2年生以降、いわゆる人文科学、社会科学を中心として、広大な「知」の世界への入口となるよう集められた科目群の中から、自らの意志で科目を選択し、学びを深めてゆくことになる。

#### b) 自然科学系科目

現代の科学技術は自然科学の大きな体系の上に成立している。科学技術の深い内容を理解するためには、自然科学との関係を十分に知ることが重要であり、その自然科学の基礎について勉強する。基礎・教養教育部門の教員が責任を持って教育にあたる。

講義科目の「数学」、「物理」、「化学」、「生物」はどのような分野に進む人にとっても重要な基礎知識である。これらについて広い視野を持つことは、各人が独自の道を切り開く上で大きな力になると信ずる。単に道具として理解するのではなく、自然現象をどのように捉え、表現しようとしているのか、また結果としてどんな描像を得ているかを理解してもらいたいと考えている。

また、現代を生きていく上で不可欠となったコンピュータの基礎について学ぶ「情報処理入門」、「建築情報処理基礎」が用意しており、これをマスターしてのち、さらに専門的な知識を身につけて欲しい。

#### c) 外国語科目

新しい国際化時代に対応し、幅のあるコミュニケーション技能を養うために、体系的かつ柔軟性を持たせたカリキュラムを編成している。

具体的には、卒業条件の8単位のうち、6単位は必修英語の科目で取得し、残り2単位は選択必修の科目から取得する。

必修の英語科目は、総合的な力を養うべく、言語諸技能の有機的な教育を目指す。それぞれ次のように重点を置いている。つまり、「Basic English I/II」では英語でたくさんを得る活動（listening・reading）に重点をおき、コミュニケーションの基礎となる語彙・文法・構文の習得を目指す。「Basic Communication I/II」は英語のoutputの活動（プレゼンテーションやレポート作成等）を通して、総合的に英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標としている。「Basic Academic English I/II」では、さらに総合的英語コミュニケーション能力の育成を目指し、英語による受信型・発信型両方のコミュニケーションスキルを養う。

選択必修科目には、「応用英語」としてIntensive English Course（夏期語学研修←または春期語学研修）・Communicative English（コミュニケーション英語）・Mass Communication English・TOEICの英語研究等を設置し、学生の積極的履修を求めている。即戦力となるような英語コミュニケーションスキルをつけたい人は新宿校舎で開講されているPresentation in English、Writing in English、Communication in Englishなどの科目にも挑戦してもらいたい。また第二外国語として「ドイツ語」・「フランス語」・「中国語」・「中国語集中講座」・「ロシア語」を設置している。

情報化時代の中で、外国語運用能力の重要性はますます高まってきている。積極的な語学学習の場としてもらいたい。

#### d) 保健体育科目

今日の技術革新による生活環境の機械化・自動化は、身体活動の著しい省力化をもたらし、動かすことによって機能する人間の身体を蝕んでいる。また科学技術の急速な発展は、一方で地球環境の加速度的な変動をもたらし、数百万年もの長い歴史の中で、ゆっくりと進化を続けてきた人類に脅威をもたらしている。次々と出現するこうした健康破壊の要因は、医学のめざましい進歩にもかかわらず人類を混迷の淵に追いやるかのようでもある。このような時代に生きる本学学生には、個人的立場からばかりでなく、将来の社会的責任を担うという立場から、「身体」と「健康」という視点において地球環境や人間生活のあり方に関心を向けて欲しい。

また新入生の多くは、受験のため身体的活動を抑えてきたために、運動不足とストレスの蓄積を痛感していることと思われる。そこで初年次は運動やスポーツの実践を通して、人間にとってファンダメンタルな欲求の充足を図り、低下した体力の早期回復とともに健全な心身の獲得を目指してもらいたい。また折に触れて身体・運動・健康等に関する最新の理論を学んだり、体力の測定と分析などを行って、自らが健康なライフスタイルを設計し、実践することのできる自己管理能力を養ってもらいたい。このようなねらいから、1年次通年で「身体・運動科学演習」を開講する。さらに今日および将来の社会に生きる学生が、健康で文化的な生活を送るためにも、また自己実現の良きパートナーとして、スポーツを生活の中に取り入れて欲しい。しかしながら建築学部では設計課題や実験等に追われ、意欲があってもクラブ等で自主的に活動する時間的ゆとりを持っていない学生が多い。このような状況に対応し、2年次以降4年次まで各自の履修計画に合わせて自由に選択できるよう多様目にとわたる「生涯スポーツ」を開講する。（詳細は「保健体育科目履修の手引」を参照。）

#### e) 自由研究科目

カリキュラムは学問の体系を踏まえて構成される。しかし、それらは歴史的な発展過程を反映した便宜的なものに過ぎない。我々の対象とする世界は、もっと広く相互に重なりあい、学問の境界は曖昧である。そのような視点から、柔軟な発想でテーマを設定し通常の授業とは違った味付けで、少人数教育を試みるのがこの科目である。諸君の興味のおもむくまま、実験を通し、あるいは原書講読を通して、学ぶことの楽しみをくみ取って欲しいと考えている。豊

富なメニューが用意してあるので、積極的に参加し、通常の講義では得られない体験を積んで欲しい。この科目群で履修した単位も、卒業に必要な単位に算入される。

#### **f) キャリア支援科目**

大学で学んだことを社会で生かしていくためには、在学中から将来を見据え、自分自身の資質・能力を向上させてゆくことが大切である。2年生後期に受講できる「キャリアデザイン」は、企業講演等を通して自らの職業観を醸成させると共に、社会と接する際に必要となる自己表現力等の能力を身につけることを目標としている。また、この科目は3年次開講科目である「学外研修」(インターンシップ)の導入科目としても位置づけられている。

建築学部 総合教育科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、□印は必履修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に●印または▲印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。備考も参照すること。

1) 総合文化科目〈第A群a)〉

授 業 科 目	単位数および標準履修学年					授業形態	教職	学位授与の方針				備 考	
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4		
【A群】 総合文化 教育科目	△ 建築ロジカルライティングⅠ	2				2	講義		○		◎	○	
	△ 建築ロジカルライティングⅡ		2			2	講義		○		◎	○	
	△ 総合文化アカデミックスキル	2または2				2	講義		○		◎	○	
	△ 哲学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 哲学B		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 倫理学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 倫理学B		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 宗教学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 宗教学B		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 心理学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 心理学B		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 教育学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 教育学B		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 歴史学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 歴史学B		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 法学A (日本国憲法1単位を含む)		2	2	2	2	講義	▲	○		○	◎	
	△ 法学B (日本国憲法1単位を含む)		2	2	2	2	講義	▲	○		○	◎	
	△ 政治学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 政治学B		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 経済学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 経済学B		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 環境経済学		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
	△ 経営学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 経営学B		2	2	2	2	講義		○		○	◎		
△ 社会学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎		
△ 社会学B		2	2	2	2	講義		○		○	◎		
△ 社会思想A		2	2	2	2	講義		○		○	◎		
△ 社会思想B		2	2	2	2	講義		○		○	◎		
△ 国際関係論A		2	2	2	2	講義		○		○	◎		
△ 国際関係論B		2	2	2	2	講義		○		○	◎		

建築学部 総合教育科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、□印は必修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に●印または▲印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。備考も参照すること。

授 業 科 目	単位数および標準履修学年					授業形態	教職	学位授与の方針				備 考
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4	
	【A群】 a) 総合文化 教育科目											
△ 文学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 文学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 美術A	2		2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 美術B		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 芸術学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 芸術学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 論理学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 論理学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 現代文化論A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 現代文化論B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 科学論A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 科学論B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 身体健康学		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ スポーツ科学			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 日本国憲法			2または2	2または2	2または2	講義	▲	○		○	◎	

2) 自然科学系科目 (A群b))

授 業 科 目	単位数および標準履修学年					授業形態	教職	学位授与の方針				備 考
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4	
	【A群】 b) 自然科学系 科目											
△ 基礎数学	2				2	講義		◎				
△ 微分積分I	2または2				2	講義	●数学	◎				
△ 微分積分II		2または2			2	講義	●数学	◎				
△ 物理学概論A		2			2	講義		◎				
△ 物理学概論B			2または2		2	講義		◎				
△ 現代の物理学				2または2	2	講義		◎				
△ 化学概論		2			2	講義		◎				
△ 化学研究法			2または2		2	講義		◎				
△ 現代の化学				2	2	講義		◎				
△ 情報処理入門	2				2	講義	●	◎		○		
△ 建築情報処理基礎			2		2	講義	●数学	◎		○		
△ 生物学概論			2または2		2	講義		◎				

建築学部 総合教育科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、□印は必修修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に●印または▲印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。備考も参照すること。

3) 外国語科目〈A群c)〉

授 業 科 目	単位数および標準履修学年					授業形態	教職	学位授与の方針				備 考	
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4		
c) 必修英語	○ Basic English I	1				1	演習	●	○		◎		
	○ Basic English II		1			1	演習	●	○		◎		
c) 必修英語	○ Basic Communication I	1				1	演習	●	○		◎		
	○ Basic Communication II		1			1	演習	●	○		◎		
c) 必修英語	○ Basic Academic English I			1		1	演習	●	○		◎		
	○ Basic Academic English II				1	1	演習	●	○		◎		
【A群】総合教育科目 外国語科目 応用英語	△ Intensive English Course	2	2	2	2	2	演習		○		◎		夏期集中または春期集中
	△ Presentation in English Basic I			1	1	1	演習		○		◎		
	△ Presentation in English Basic II				1	1	1	演習		○		◎	
	△ Presentation in English Advanced I			1	1	1	演習		○		◎		
	△ Presentation in English Advanced II				1	1	1	演習		○		◎	
	△ Writing in English Basic I			1	1	1	演習		○		◎		
	△ Writing in English Basic II				1	1	1	演習		○		◎	
	△ Writing in English Advanced I			1	1	1	演習		○		◎		
	△ Writing in English Advanced II				1	1	1	演習		○		◎	
	△ Communication in English Basic I			1	1	1	演習		○		◎		
	△ Communication in English Basic II				1	1	1	演習		○		◎	
	△ Communication in English Advanced I			1	1	1	演習		○		◎		
	△ Communication in English Advanced II				1	1	1	演習		○		◎	
	△ Communicative English A	2	2			2	演習		○		◎		
	△ Communicative English B	2	2			2	演習		○		◎		
	△ Communicative English C			1	1	2	演習		○		◎		
	△ Communicative English D			1	1	2	演習		○		◎		
	△ Critical Reading			1		1	演習		○		◎		
	△ Reading for Discussion				1	1	演習		○		◎		
	△ Technology in Society				1	1	演習		○		◎		
	△ Cultural Systems			1		1	演習		○		◎		
	△ Globalization					1	1	演習		○		◎	
	△ English Lecture Series/Workshops			1		1	演習		○		◎		
	△ Conducting, Writing, and Presenting Research in English					1	1	演習		○		◎	
	△ Mass Communication English A		2			2	演習		○		◎		
	△ Mass Communication English B			2	2	2	演習		○		◎		
	△ TOEICの英語研究 I	2	2	2	2	2	演習		○		◎		
	△ TOEICの英語研究 II	2	2	2	2	2	演習		○		◎		
第二外国語	△ ドイツ語初級I	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
	△ ドイツ語初級II	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
	△ ドイツ語中級A		1	1	1	1	演習		○		◎		
	△ ドイツ語中級B			1	1	1	1	演習		○		◎	
	△ フランス語初級I	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
	△ フランス語初級II	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
	△ フランス語中級A		1	1	1	1	演習		○		◎		
	△ フランス語中級B			1	1	1	1	演習		○		◎	
	△ 中国語初級I	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
	△ 中国語初級II	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
	△ 中国語中級A		1	1	1	1	演習		○		◎		
	△ 中国語中級B			1	1	1	1	演習		○		◎	
	△ 中国語集中講座A	1	1	1	1	1	演習		○		◎		夏期集中または春期集中
	△ 中国語集中講座B	1	1	1	1	1	演習		○		◎		夏期集中または春期集中
	△ ロシア語初級I	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
	△ ロシア語初級II	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
△ ロシア語中級A		1	1	1	1	演習		○		◎			
△ ロシア語中級B			1	1	1	1	演習		○		◎		



建築学部 総合教育科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、□印は必修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に●印または▲印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。備考も参照すること。

4) 保健体育科目〈A群d)〉

授 業 科 目	単位数および標準履修学年					授 業 形 態	教 職	学位授与の方針				備 考
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4	
	【A群】 総合教育 科目 d) 保健体育	○ 身体・運動科学演習	2						2	●	○	
	生涯スポーツA		1または1	1または1	1または1	1		○		○	◎	
	生涯スポーツB		1または1	1または1	1または1	1		○		○	◎	
	生涯スポーツC			1または1	1または1	1		○		○	◎	

5) 自由研究科目〈A群e)〉

授 業 科 目	単位数および標準履修学年					授 業 形 態	教 職	学位授与の方針				備 考
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4	
	【第I群】 総合教育 科目 e) 自由研究	歴史と人物	2	2	2			2	2		○	
	都市文化研究	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	哲学書を読む	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	科学技術と倫理を考える	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	国際問題の学際的研究	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	現代社会論	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	比較社会文化研究	4	4	4	4	4		○		◎	○	
	経済学説の研究	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	ロジカルライティングⅠ	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	ロジカルライティングⅡ	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	英語によるメディア研究とビデオ制作	4	4	4	4	4		○		◎	○	
	英検準一級・二級の英語研究	4	4	4	4	4		○		◎	○	
	アメリカ言語文化事情	4	4	4	4	4		○		◎	○	
	現代物理の世界	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	教師としての実践的力量的形成			2	2	2		○		◎	○	
	教育者のための遊びの指導法	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	教育実践記録を読む	2	2			2		○		◎	○	
	教育問題を考える	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	機械の技術史	2	2			2		○		◎	○	
	複雑系の科学	2	2	2	2	2		○		◎	○	
	ロシア語で学ぶ理工学			2	2	2		○		◎	○	

6) キャリア支援科目〈A群f)〉

授 業 科 目	単位数および標準履修学年					授 業 形 態	教 職	学位授与の方針				備 考
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4	
	【A群】 総合教育 科目 f) キャリア支援	キャリアデザイン		2					2		○	
	日本経済分析入門			2または2	2または2	2		○		○	◎	
	事業運営の基礎知識			2または2	2または2	2		○		○	◎	
	中国の社会と文化			2または2	2または2	2		○		○	◎	

《2017年度(平成29年度)入学生用》

## 〔建築学部 3学科共同年次〕

School of Architecture  
Common Basic Curriculum

### 【建築学部3学科共通】

建築学部 まちづくり学科  
建築学部 建築学科  
建築学部 建築デザイン学科

#### ■建築学部3学科共同年次の教育理念

これまでの建築教育体系では、多くの大学が単一学科の中で1～4年次の教育を一本の道筋で行ってきた。しかし、近年、建築に対する社会的要請がさらに多様になり、建築学、および、それに関連する幅広い分野の教育が求められるようになってきた。さらに学生の興味も多様化している。こうした傾向に対応して、建築学部では、1、2年次を「建築学部 3学科共同年次」とし、①人間力、および、コミュニケーション力を養うA群「総合教育科目」と②専門力を養うB群「専門科目」を2本の柱として教育課程を編成している。建築学部の3学科共同年次では、専門分野だけに偏らない総合的な能力のある人材の育成を目標としている。

また、B群「専門科目」はB群a)「専門基礎科目」とB群b)「専門科目」に分けられる。このうち1、2年次の建築学部3学科共同年次で学習するのはB群a)「専門基礎科目」のみで、学科を問わず専門基礎教育に関する同一のカリキュラムを学習する。その目的は以下の2点である。

##### 1) 建築学のための基礎的な素養と建築士対応

建築学を学ぶ者に必要とされる基礎的な要素技術は、将来、どんな方向に進もうとも共通である。したがって、入学時からの2年間は、専門基礎教育に関する3学科同一のカリキュラムとして、基礎的な要素技術を身につける期間としている。また、この2年間の学習内容は、ほとんどの学生が将来の目標としている建築士資格を受験するために必要な内容のかなりの部分をカバーしている。

##### 2) 建築分野の幅と奥深さへの理解

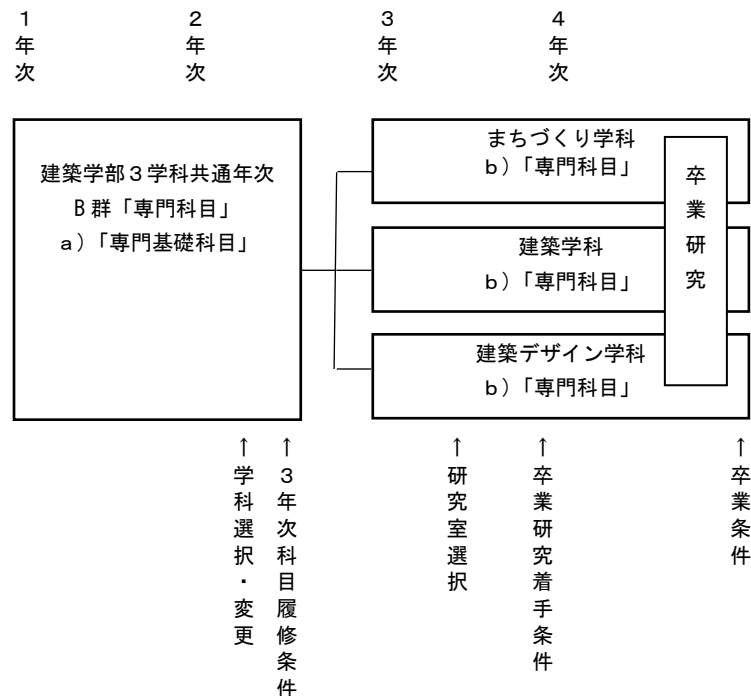
ひとことで「建築」と言っても幅は広く、奥も深い。大学を選ぶ段階で全体像を詳しく知ることは難しく、その段階で細かな学科を選択したとしても、入学後にその選択が本当に自分の勉強したいことと合っていないことに気づいたり、入学前には知らなかった分野があることを知り、そちらに進みたくなったりする例が少なからずみられる。そこで、1、2年次の専門基礎教育を通じて、この分野の幅の広さ、奥の深さを学生がある程度理解し、将来の進路も見定めるようになる3年次から各学科に配属される方法を、建築学部としては採用している。1、2年次の3学科共同年次では、自分が将来進む方向性を見つけるという意識を持って学習に励んでほしい。

また一般教養科目は、1、2年次に集中せず、A群の総合教育科目として1～4年次に分散配当し、専門教育と一般教養教育とを有機的に結びつけて、専門だけに偏らない、全人格的な建築のプロフェッショナル育成という目標を達成できるような教育プログラムを構築している。

#### ■建築学部3学科共同年次の学年進行の概要

建築学部3学科共同年次全体の教育理念を具現化するための仕組みは、概ね下図のようになっており、入学後、学年進行とともに徐々に細かく分かれていく。1、2年次におけるB群「専門科目」のa)「専門基礎科目」は、3学科共通のカリキュラムとなっており、選択の自由度は小さく、必修科目が多く配当されている。これらの科目は、建築学に関連するどのような分野に将来進んだとしても必要となる基礎的要素技術であり、また建築士資格取得のために必須のものである。

一方、3、4年次は、学科に分かれてそれぞれに対応したカリキュラムに従って学習するとともに、研究室単位での「建築セミナー」、「卒業研究」を履修する。各学科のカリキュラム編成は、それぞれの扉ページに記載されている。なお、学科の選択・変更の時期等については変更することもありえ、変更があった場合には掲示等で周知する。



## ■建築学部設置されている各学科の教育理念

### 【まちづくり学科】

まちづくり学科では、地球規模の大きな社会状況の変化のもとで、これから我々がより快適に住み続けられるための「まち」の新しいあり方を学生自身が考え、身近な「まち」に関わる様々な視点（つくり手・住まい手の両方からの視点）を学修・研究する。都市デザイン、ランドスケープデザイン、環境共生、安全・安心を4本の柱として、まちづくりやそのスキルに関する多角的知識を理解し、実現性の高い、将来の「まち」のあり方を提案できる能力を身につけていく。「まち」は建築の単なる集合体ではないが、建築がひとつの重要な構成要素である。建築の基礎的な素養・知識をベースにしてまちづくりを学ぶことで、さらに実現性の高いスキルを身につけられるのが、この学科の特徴である。

まちづくり学科の専門科目は、上記の4本の柱に対応して、学科全体に横断的に設置される共通科目の他に、都市デザイン科目、ランドスケープデザイン科目、環境共生科目、安全・安心科目から構成される。これらの中から学生各自が所属する研究室の専門分野に対応して、いずれかの科目群に軸足を置きながら、関連する他分野科目、他の2学科に設置される専門科目と合わせて修得することでさらに高い学習効果を得る。こうした専門科目の履修にあたっては、研究室の担当教員が十分な履修指導を個別に行う。また、卒業研究においては、机上の空論に留まらず、本学の立地条件を活かしたさらに実践的なまちづくりに接する中で、各自の研究テーマを考えていく。

### 【建築学科】

建築学科では、今後も継続して、安全で快適な生活の場を構築することを目的とした教育・研究を行う。しかし、その教育・研究のベースとなるスタンスは大きく変化してきている。これまでの大量生産・大量消費時代の新規供給中心の建築の考え方は今や終焉を迎えたのであり、安全で環境負荷の少ない生活環境の創造と維持を実現する建築の考え方を教育の中心に据えている。すなわち、人口減少社会、高齢社会、環境負荷軽減等の社会的な課題を背景として建築をつくり、使い続け、資源として循環させたりする高度な要素技術に関する多面的知識を理解し、これからの新しい建築のあり方を提案できる能力を身につけていく。

建築学科の専門科目は、学科全体に横断的に設置される共通科目の他に、建築計画科目、建築構造科目、建築設備科目、建築生産科目から構成される。その内容は最先端の上記の思想を反映したものになっている。これら4種の科目群の中から学生各自が所属する研究室の専門分野に対応して、いずれかの科目群に軸足を置きながら、関連する他分野科目、他の2学科に設置される専門科目と合わせて修得することでさらに高い学習効果を得る。こうした専門科目の履修にあたっては、研究室の担当教員が十分な履修指導を個別に行う。また、卒業研究では、外部の研究所や企業との連携を密とし、八王子キャンパスに整備されている実験施設も活用して、各自の研究テーマについて考察していく。

#### **【建築デザイン学科】**

建築デザイン学科では、単に美しいだけでなく、機能的にも優れ、快適で使いやすい人間のための建築デザインとは何かを学生自身が考えていく。建築の意匠デザイン、住宅・店舗等のインテリアデザイン、高齢者等に配慮した住環境デザイン、重要な建造物の保存・再生に関わるデザインなどを学び、新しいデザインを創造・発信していくのである。わが国は、戦後、建築の量的な充足に専心してきたが、次第に美しい国を目指すことができるようになり、建築に対しても美しさ、調和などが求められてきている。また、同時に環境への配慮や人間の生活の質（Quality of Life）向上に関する多面的知識を理解し、人間のための建築デザイン提案ができる能力を身につけていく。

建築デザイン学科の専門科目は、学科全体に横断的に設置される共通科目の他に、建築デザイン科目、インテリアデザイン科目、福祉住環境デザイン科目、保存・再生デザイン科目から構成される。いずれかの科目群に軸足を置きながら、関連する他分野科目、他学科科目と合わせて修得することでさらに高い学習効果を得る。専門科目の履修にあたっては、研究室の担当教員が個別に十分な履修指導を行う。単なる建築デザインを扱うのではなく、福祉住環境、保存・再生などの、これまでの建築デザインから間口を広げて、今後、さらに重要度の増す視点を盛り込んで学科を構成している。また、卒業研究では、架空のプロジェクトだけに留まらず、本学の立地も生かしながら、さらに実践的なプロジェクトへの設計・提案や研究を各自行っていく。

2017年（平成29年）度入学生用 建築学部3学科共通 履修フロー

カテゴリー	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	
【A群】総合教育科目	a) 総合文化科目	建築ロジカルライティングⅠ(2) または 総合文化アカデミックスキル(2) 美術A(2)	総合文化アカデミックスキル(2) 建築ロジカルライティングⅡ(2) 美術B(2)	(第1類)人間の探求(2)×12科目、(第2類)社会の科学(2)×15科目、(第3類)世界と日本(2)×12科目、(第4類)芸術と表現(2)×10科目、(第5類)科学と文明(2)×11科目					
	b) 自然科学系科目	基礎数学(2) または 微分積分Ⅰ(2)* 情報処理入門(2)	微分積分Ⅰ(2)* 微分積分Ⅱ(2)* 物理学概論A(2) 化学概論(2)	自然科学系選択科目(2)×8科目					
	c) 外国語科目	Basic English I (1) Basic Communication I (1)	Basic English II (1) Basic Communication II (1)	Basic Academic English I (1)	Basic Academic English II (1)	コミュニケーション科目(1)×10科目、応用英語(2)×19科目、第2外国語(2)×9科目			
	d) 保健体育科目	身体・運動科学演習(2)		生涯スポーツA(1)	生涯スポーツB(1)	生涯スポーツC(1)			
	e) 自由研究科目	自由研究科目(2)×15科目 + (4)×4科目							
	f) キラリ支援科目	キャリアデザイン(2)							
【B群】専門科目	a) 専門基礎科目	建築入門	建築概論	建築設計Ⅰ(2)	建築設計Ⅱ(2)	建築設計Ⅲ(2)	b) 専門科目 まちづくり学科学生はまちづくり学科の頁を参照のこと 建築学科学生は建築学科の頁を参照のこと 建築デザイン学科の学生は建築デザイン学科の頁を参照のこと		
		基礎設計・図法(2)	建築設計Ⅰ(2)	建築設計Ⅱ(2)	建築設計Ⅲ(2)				
		都市デザイン(2)	まちづくり論(2)	都市計画(2)	ランドスケープデザイン(2)				
			西洋建築史(2)	近代建築史(2)	日本建築史(2)				
					建築法規(2)				
		構造力学Ⅰ(2)	構造力学演習Ⅰ(1)	構造力学Ⅱ(2)	構造力学演習Ⅱ(1)				
		建築構法(2)		建築の構造(2)					
			建築材料(2)	建築施工(2)					
		設備計画(2)	環境工学Ⅰ(2)	環境工学Ⅱ(2)	建築設備工学(2)				
				構造基礎実験(2) 材料実験(2) 環境基礎実験(2) 測量実習(2)	※構造基礎実験、 材料実験、 環境基礎実験、 測量実習は 1科目のみ履修可				
社会貢献学入門(2)		減災学入門(2)	減災学入門(2)	建築技術者の倫理(2)					

必修科目
1年次指定選択必修科目
選択必修科目
選択科目
前期または後期

建築学部3学科共通 専門基礎科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、□印は必修修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に教科名・印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。●印は必修科目、教科名のみは選択科目。

「高校一種(工業)」の免許取得希望者は上記以外に、他学科開講科目で教職必修科目があるため詳細は入学年度の「教職課程の手引」を確認すること。

1) 専門基礎科目〈第B群a)〉

授 業 科 目	単位数および標準履修学年					授業 形態	教職	学位授与の方針				備 考	
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4		
【B群】 専門基礎科目	建築入門	2				2	講義		○	◎			
	建築概論		2			2	講義	●工業	○	◎			
	○基礎設計・図法	2				2	演習	工業		◎			
	○建築設計Ⅰ		2			2	演習	工業		○	◎	○	
	○建築設計Ⅱ			2		2	演習	工業		○	◎	○	
	○建築設計Ⅲ			2		2	演習	工業		○	◎	○	
	○建築計画Ⅰ		2			2	講義	工業	○	◎			
	○建築計画Ⅱ			2		2	講義	工業	○	◎			
	○建築計画Ⅲ			2		2	講義	工業	○	◎			
	○西洋建築史		2			2	講義	工業	○	◎			
	近代建築史			2		2	講義		○	◎			
	○日本建築史			2		2	講義	工業	○	◎			
	都市デザイン	2				2	講義	工業	○	◎			
	まちづくり論		2			2	講義	工業	○	◎			
	○都市計画			2		2	講義	工業	○	◎			
	ランドスケープデザイン			2		2	講義	工業	○	◎			
	○構造力学Ⅰ	2				2	講義	工業	○	◎	○		
	○構造力学Ⅱ			2		2	講義	工業	○	◎	○		
	構造力学演習Ⅰ		1			1	演習	工業	○	◎	○		
	構造力学演習Ⅱ			1		1	演習		○	◎	○		
	○建築の構造			2		2	講義	工業		◎		○	
	○建築構法	2				2	講義	工業	○	◎			
	○建築材料		2			2	講義	工業	○	◎			
	○建築施工			2		2	講義	工業	○	◎		○	
	○設備計画	2				2	講義	工業		◎			
	○環境工学Ⅰ		2			2	講義	工業	○	◎	○	○	
	○環境工学Ⅱ			2		2	講義	工業	○	◎	○		
	建築設備工学			2		2	講義			◎			
	○建築法規			2		2	講義	工業	○	◎		○	
	△構造基礎実験			2		2	実習	工業	○	◎			
△材料実験			2		2	実習	工業	○	○	◎	○		
△環境基礎実験			2		2	実習	工業	○	◎				
△測量実習			2		2	実習	工業	○	◎	○			
建築技術者の倫理			2		2	講義	工業		○		◎		
社会貢献学入門	2				2	講義		○	◎	○	○		
減災学入門	2	2	2	2	2	講義			◎		○		

◇建築学部3学科共同年次の履修規定と履修上の注意〔2017年度（平成29年度）入学生用〕

表1 3年次科目履修条件、卒業研究着手条件、卒業条件

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業研究着手条件	卒業条件
[A群] 総合教育科目	a) 総合文化科目		1年次指定選択必修科目4単位以上 注1)	合計24単位以上 (a) 総合文化科目, b) 自然科学系 科目の1年次指定選択必修科目を 含む)
	b) 自然科学系科目		1年次指定選択必修科目4単位以上 注1)	
	c) 外国語科目		必修科目6単位	8単位以上 (必修科目6単位を含む)
	d) 保健体育科目		必修科目2単位 (上限5単位)	2単位以上 (必修科目2単位を含む, 上限5単位)
	e) 自由研究科目			
	f) キャリア科目			
[B群] 専門科目	必修科目	必修科目・選択必修科 目合わせて36単位以上	1,2年次配当のすべての必修科目40 単位	1,2,3年次配当のすべての必修科目 42単位
	選択必修科目		2単位 (上限2単位)	2単位 (上限2単位)
	a) 専門基礎科目 b) 専門科目	選択科目		30単位以上 (建築学部他学科3,4年次配当選択 科目を14単位まで含められる)
		卒業研究		8単位
合計		62単位以上	100単位以上	124単位以上 (他学部科目を8単位まで 含められる)

<進級に関わる注意事項>

注1 参照) 建築学部ではA群総合教育科目a) 総合文化科目とb) 自然科学系科目に「1年次指定選択必修科目」がある。

1年次にそれぞれ2科目4単位以上、計4科目8単位以上の修得が義務付けられている。

ただし、「基礎数学」、「微分積分I」、「微分積分II」の中から複数科目修得しても、すべて卒業単位とはなるが、1年次指定選択必修科目として認められるのはそのうちの1科目のみである。

在籍3年目に、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科への所属が決定する(休学期間の有無や3年次科目履修条件を充足している・いないに関わらない)。

3年次科目履修条件の判定は2年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は、各年度の前期末と後期末に判定される。なお、3年前期末、4年前期末に条件を満たした場合でも、その年度後期に開講される「建築セミナー」は履修できない。

「卒業研究」は4年次通年科目のため、「卒業研究着手条件判定」は3年後期末に実施される。この時条件を満たせない場合は、各年度の後期末に判定する。

<その他の科目修得ルール>

■ a) 専門基礎科目・選択必修科目の「構造基礎実験」「材料実験」「環境基礎実験」「測量実習」からは1科目しか履修できない。

■ 各学科必修科目「まちづくり演習」、「建築演習」、「建築デザイン演習」は重複履修できない。また、所属学科で修得した科目と同一名称の建築学部他学科科目は重複履修できない。

■ カリキュラムの経過措置と再入学生、編入学生に対する取扱い

(イ) 学生には、入学年度のカリキュラムが適用される。

(ロ) 今後、カリキュラムが改変された場合、入学年度のカリキュラムにない専門科目の単位修得は「建築学部科目変遷表」(『履修の手引き』に掲載)によって認定される。また、「建築学部科目変遷表」において、入学年度のカリキュラムの専門科目と、それに対応する新カリキュラムの専門科目は重複履修できない。名称が異なっても、対応科目に設定されていれば、同様に重複履修できない。

(ハ) 再入学生、編入学生には、再入学、編入学年次に該当するカリキュラムが適用される。

(ニ) 編入学生に対する特別措置として、工学部第2部建築学科の開講科目のうち、予め許可された科目を履修することで、建築学部の科目履修に代えることができる。詳細は『履修の手引き』などで別途定める。

■ 建築学部3年次への編入生、転籍生の履修に関する注意

3年次編入生についてのみ、1・2年次配当の必修科目(八王子キャンパス開講)を対象として、対応する工学部第2部開講科目の履修を許可する。この対応科目の単位を修得することにより、建築学部必修科目の単位を修得したものとみなす。詳細は掲示される「建築学部・工学部第2部建築学科科目対応表」にて確認すること。

なお、3年前期の必修科目と1・2年次配当の必修科目が時間割上重なる場合は、卒業研究着手条件を満たすという観点から1・2年次配当の必修科目を優先しなければならない。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	有
卒業論文着手	無
卒業	有（学則の定めにより）

※「3年次科目履修条件」を満たしていない者が、次の判定の時期に「卒業論文着手条件」を満たした場合、卒業論文に着手することができる。